

活躍する“男性セラピスト”に注目してみました!

www.therapylife.jp

アロマセラピー・カウンセリングと
自然療法の専門誌

隔月刊 APR. 4月号

2010 vol.48

定価980円

平成22年3月6日発行(発売) 奇数月/白黒印刷 定価415円

セラピスト

第1特集

香りに魅かれて、
アロマセラピー検定&資格取得、
そしてこれから——

100%アロマセラピーの
“香り”を活用していますか?

顧客獲得・リピート率上昇
「不況に強いサロンをつくろう!」

IFA会長スー・モースリさんの
「マタニティ&ベビーマッサージ」

第2特集

海外では当たり前
活躍しているのはなぜ?

信頼される 男性セラピストたち





Part 4

学んだ知識で
“香り使い”になる

File 2

セラピストがプロデュースする 障がい者がアロマを学べる場

大阪府豊中市障害者福祉センター ひまわりでは、さまざまな講座が開催されています。
その中でも、抽選で受講者を決めるほどの人気講座が「アロマセラピー講座」。
担当するわたなべよしえさんは、いつも参加者に配慮しながら
記憶に残る香りと空間づくりに力を入れています。

文◎わたなべよしえ 写真◎高口美香

香りの持つ魅力や奥深さに
敏感に反応してくれる

私が大阪府豊中市立障害福祉センター「ひまわり」でアロマセラピーの講座を開催するようになって、3年が経とうとしています。ここでは20代から70代の老若男女の方々に、月に1回、季節に応じた講座を開いています。

たとえば、春には「ユウカリ」を使った花粉症対策クリーム、夏には「レモングラス」を使った虫除けスプレーなど、季節やその時のニーズに応じたものがテーマ。最近では新型インフルエンザ予防対策をテーマにしました。

毎回講座では、ハーブティーを飲みながら、参加者の皆さんとアロマクラフトを作っています。いろいろな障がいをお持ちの方がいらっしゃいますが、できるだけご自分で作っていただくようにしています。

視覚や手のご不自由な方たちにとっては、精油を1滴垂らすことすら難しかったりしますが、実際に触れて経験して、アロマセラピーを楽しんでいただきたいという気持ちから、あえて私はあまりお手伝いをしないようにしています。

そして、家でも実践したり、ご

わたなべよしえさん

横浜生まれ、大阪在住。Angeluna主宰。IFA創設者の一人、ジャーメイン・リッチ女史から習い、1999年英国IFA資格を取得。日本ホリスティックケア研究所 (<http://www.aromapot.co.jp>) 英国留学後、会員制ホテルのスパ立ち上げに関わり、スパセラピストを経て、岩砂マタニティクリニック (<http://www.ad-east.com/wasa/>) にて、医療現場へアロマセラピーを導入する。



家族の皆さんにもアロマセラピーを体験していただきたいという思いから、毎回お持ち帰りができるアロマクラフトをしています。

精油の香りに対する参加者の方々の反応はさまざまですが、精油の効果・効能を説明していくと、香りが持つ奥深さに感心して、気に入ってもらえることが多いです。

精油の中ではとくに、若返りの逸話があるハンガリーウオーターの素になった「ローズマリー」や、クレオパトラがお化粧に使ったと言われている「フランキンセンス」などが人気があります。いつまでも若くありたい、美しくありたいと思うのは、皆さん共通の願いです。

私が講座で驚かされることは、皆さんが香りにとても敏感なこと

です。精油を説明する時は、まず試香紙に精油をつけて、香りを嗅いでいただいて、その感想をお聞きます。この時に、視覚障がいをお持ちの方たちは、とても香りに敏感で、微妙な違いを嗅ぎ分けたり、何年か前に1度だけ使用したことがある精油の香りを覚えていらつしやる方もいます。

また、「レモングラス」は、最初に薫り立つ甘いレモンのような香りから、柑橘系の香りと判断される方が多い中、視覚障がいをお持ちの方たちは、「草のような香りがする」とイネ科特有のスッカリとしたドライな香りを捉えることができるともあります。

参加者の中には、あまり外出されない方もいらつしやいますので、アロマセラピーがきっかけになったら……と思い、皆さんをお

誘いして、お出かけをすることもあります。一緒にアロマセラピーのお店に行き、講座ではご紹介しきれない精油やハーブ、また最新のアロマ製品に直接触れることは、机上だけでは得られない勉強になります。皆さんも、楽しみながらアロマセラピーに接する機会を喜んでおられます。

最近のアロマセラピーの講師業は、資格取得のための「先生」要素を求められることも多く、また長い間、講師業をしていますと「セラピスト」という大切な部分から離れていってしまうような感覚に陥ることもあります。

しかし、障がい者施設の講師の場合、アロマについてお伝えする

だけでなく、心の繋がりや気配りなども常に必要とされます。ですから、「セラピスト」としての役割をしつかりと感ずることができ、講座中もまるでセラピーを提供しているような気持ちにもなります。

私はIFAの資格を取得してから、今年で11年目になります。それまで独学で勉強していたことを、統合的に学びたいと思いIFAの資格を選びました。スクールに通ってアロマセラピーの一般的な知識と技術、解剖生理学等を学べたことは、私にとって自信につながり、現在に至ります。

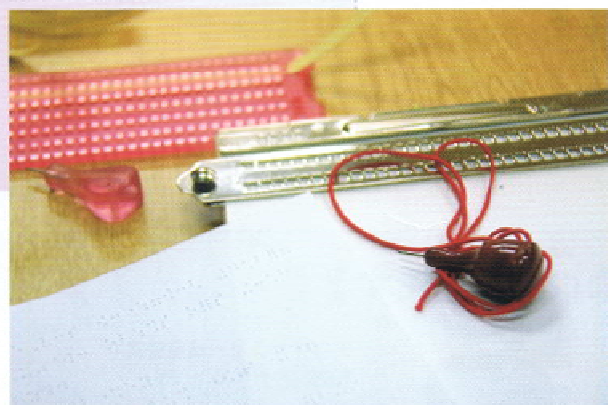
今後、もっと多くの障がい者の方たちに、アロマセラピーを楽しんでいただきたいです。この輪がどんどん広がっていくことを願っています。

点字の普及にも貢献、 どんな方にも読める テキストを

「講座のテキストは、点字訳や視力の弱い方のために大きくコピーをしています。視覚がご不自由な方の中には、もっと精油やアロマ製品を使いたいと思われている方も多くいらっしゃいます。しかし、アロマセラピーのお店の製品表示は全体的にとっても小さめです。私もハーブショップにいたことがあるのでわかりますが……。小さな紙に、効果や効能を書くと、とても小さい字になってしまいます。これでは視力が弱い方やお年寄りには、何が書いてあるかわかりません。ぜひ、お値段だけでも、できるだけ大きくわかりやすい表示にいただきたいものです。ちなみに講座の中では、アロマセラピーのテキストを施設のスタッフに点字訳をしていただくことがあります。

アロマセラピー業界のバリアフリー化、点字の普及にも務めておりますので、ご支援、ご協力をお願いします」(わたなべさん)

点字バージョンのテキストと、
携帯できる点字器具



障がい者の自立と社会参加を支援する アロマセラピー講座“クラフト作り”

施設で開催されるアロマセラピー講座は、教える技術や能力よりも、参加者への「気配り」が大切。

セラピストとして培ってきたホスピタリティを生かし、
アロマクラフトを作る参加者たちの興味と笑顔を引き出していきます。



アロマセラピー講座でわたなべさんが心がけていることは、「アロマセラピーの原点でもある『香り』を楽しみながら、心からリラックスして欲しい」ということ。教室に入った瞬間に「良い香り～」とあふれる笑顔、ハーブティーを飲みながら、アロマセラピーを学ぶゆったりとした時間……。月に1回のアロマセラピーの講座を楽しみにされている方も多いそう。そんな皆さんを、アロマを通して癒してさし上げるのが役目だと感じているといいます。アロマセラピー講座は毎回欠席も少なく、満員御礼の大盛況なのだとか。

講座の流れ 基本型 (1時間40分)

- 前 半
今日のハーブティーの説明
精油について2、3本紹介
質問
～休憩～
- 後 半
アロマクラフト作り
質問



講座の流れは、その日によって
変えていくという。参加者一人
ひとりの様子を伺いながら、寄
り添うように講座が進んでいく



鼻の粘膜につけても安心な 「花粉症対策クリーム」

【材料】精油、ユーカリ1滴、キャリア
オイル、太白ごま油10mlずつ、無精製
ミツロウ2g

- 1) 湯せんでキャリアオイルを温める
- 2) キャリアオイルが温まったら、その
中にミツロウを少しずつ入れて溶かす
- 3) 全部溶けたら、容器に分ける
- 4) 固まらないうちに精油を1滴入れて、
かき混ぜる

精油1滴垂らすのも心を込めて、
気配りと場の空気を感じながら――

施設でアロマはどんな役割を果たす？



豊中市立障害福祉センターひまわりスタッフ
中川千裕さん

一人ひとり、好みの香りは違うけれど、自分の好
きな香りに出会い、またその香りを通じて、いろ
いろな障がいをもった方も、日頃の緊張から解き
放たれて、仲間の輪が広がっていくので、和気あ
いあいと学ばせてもらっています。



アロマセラピー講座受講生
杉本充子さん

施設では他の講座も受講しましたが、クラスの人
と仲良くなれたのはこの講座だけです。どんな質
問にも誠心誠意わかりやすく答えてくださる先生
の魅力が、人気の理由だと思います。また、アロ
マクラフトを作るのも楽しくて、友人にプレゼン
トすると喜んでもらえるのも嬉しいです。